

札幌オリンピックの恵庭岳滑降競技場へ通じるオコタンペ川沿いの道路が、冬の積雪期にはキャパシティが大幅にダウンするので、恵庭岳南東山麓の湖岸沿いに車道を新設して輸送力を強化したいというオリンピック組織委員会側の要望と、自然保護の観点からこれに強く反対する北海道自然保護協会などの意見が対立している。このいきさつは会誌や会報にも報告されているし最近ではマスコミにも大きく報道された。

恵庭岳をめぐる冬季オリンピック施設の計画が話題にのぼるようになったのは、札幌招致が正式決定を見る二、三年も前で、昭和三十八年（一九六三年）七月二日、町村知事は記者会見でこの点にふれ、ついで八月十二日には冬季オリンピック施設打合会が札幌市役所で開かれ、当時、道庁の公園係長であった私は、渡部林政課長、齋藤春雄課長補佐、公園係の諸君らとともに出席した。

開発局や営林局の関係者も出席して、冬季オリンピック招致委員会事務局から説明をうけた。具体的な施設計画が公式に発表されたのは、おそらくこれが最初であったかと思う。それは単に聞きおく程度の説明会であったし、そのあと約一年間の私の在任期間中には、なんの進展もないままにポストを変わってしまったので、その後のく

わしい経過は知らないが、こんど新たに南東山麓の湖岸ルートの車道新設計画が浮かんできたことを聞くと、当時のいきさつを知るものとしては、何をいままさら、という感じがするのである。

滑降コースそのものが、すでに大きな問題であった。支笏湖の景観上重要なポイントである恵庭岳斜面の立木が伐採され、醜い赤ハダをさらけ出すことは、風致上大きな支障がある。オリンピック終了後植林するとはいつても、もとの状態に回復するのは容易でなからう。札幌市の藻岩山の北斜面が、二十年以上たつてもあのままだ。まして恵庭岳の急斜面は土壤流亡のおそれもある。滑降コースもできあがり、すでにブレ・プレ・オリンピックの競技会も行なわたいまとなつては、オリンピック組織委員会が約束を忠実に守って、跡地の緑化回復に万全の努力を払ってくれることを期待する以外にないが、それにしても、あの傷あとが消え去るまでには長い年月が必要であらう。

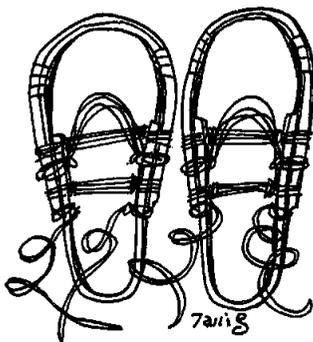
札幌オリンピックも結構だし、スキーマッカ北海道に国際級の滑降コースの二つや三つあつて不思議ではないが、せっかくの景観をこわさないよう、自然公園以外の場所に適当な候補地が求められないものかと、私たちは質問した。事務局の回答は、

ずいぶん探しまわつたが、札幌近郊ではこ以外にない、ということだった。ほれた欲目にアバタもエクスボで、ほかに美人の候補地があつても、目に入らなかつたのかもれない。

滑降コースについての難問は、会場への到達道路であつた。道々・札幌―支笏湖線からわかれて、恵庭岳北西山麓を経てオコタンペ川口にいたる路線を、開発道路として開発局が開設するという案が示された。現在の七・六キロの道路がこれである。このルートは、もともと厚生省の公園計画にはなかつたものである。そればかりか、そのとき示された案では、路線は特別保護地区のオコタンペ湖の水ぎわを通る計画となつていた。私たちは、これらの点をあげてこの案に反対した。

オコタンペ湖は、かわいらしいほどの小さな湖だが、比較的原始性が残っている支笏湖のなかでも、とくに強く原始の姿をとどめた静かな、北海道でも珍らしいせき止め湖である。それゆえにこそ、その周辺はもつとも規制の強い特別保護地区に指定されているのである。そこへ車道を入れて車の洪水がおしよせたら、この美しく神秘的な原始景観は、ひとたまりもなく破壊されるにちがいない。

結局このルートは、直接オコタンペ湖の



中 村 幸 雄

水ぎわにおりるのをさけて、特別保護地区の境界をかすめるようにして通ることに変更されたが、これとても道路施行者側が特別保護地区の意義や自然保護の重要性を認識したうえのことかどうか、すこぶるあやしい。オコタン湖周囲の岸は切りたつたガケになっていて、せまいスリパチの底みたいなどころへ、勾配のゆるい車道をおろすこと自体むりがあるという、単なる技術的な理由から水ぎわをさけたとも考えられるからである。

この路線が難工事であろうことは、はじめからシロウト目にも予想できた。オコタンベ川の兩岸はほとんど断崖で、奥に行くほどひどい。思わぬカネをくいそうだというので、開発局の事務当局や技術担当者が決ったというのもうなすける。こういう技術的、財政的困難をおかし、かつ、公園計画の変更をあえてしてまで無理をとす必要があったのかどうか。地形上、切り通しや坂が多く、除雪も困難で、なだれの危険もあることぐらひは、土木専門のクロウトにははじめから予測されていたのではなかったか。それなのに、やってみてこつちがダメだったからあつちも、というのは欲が深く、むしのよすぎる話ではなかるうか。追いだした女房に未練がでて、やいのやいのと復縁をせまるようなものだ。

札幌オリンピック組織委員会には、顧問その他の役員として政財官界のお歴々が名をつらねているから、その力をもってすれば、どんなむりでもとおるかもしれない。まして日本人は錦の御旗によわい。国家的行事という錦の御旗が風になびげば、日本人のバイタリティはその目標に向つて、バク進する。不可能を可能にする。東京オリンピックも、万国博もそうであった。開催があやふまれるほどの短期間に、昼夜兼行で施設を完備し、準備万端を完了した。このバイタリティこそ、日本経済の高度成長の原動力でもあろう。

しかし、日本人は派手なお祭りさわざは熱心にするし、セレモニーにはウデ前を發揮するくせに、公害防止や自然保護、ゴミの処理、下水設備など、身近な地道な仕事にはあまり熱を入れてとりくまない。だから繁栄のかけにヒズミがあらわれたように国家的行事成功のうらにもいろんな犠牲が払われて、あとしまつも満足にできない。東京オリンピックの施設は残つたが、オリンピック道路は早くもパンク寸前だし、反対にアクビをしている施設もあるらしい。「パンパクさまのお通り」には、全国から高賃金で労働者をかき集めたために、全国的な労賃の上昇を招いたし、過疎現象に拍車をかけた。パンパク観光客を日当ての

思惑買いかから、野菜など生鮮食糧品の品不足と値上がり呼び、庶民の生活を苦しめた。華やかな国家的行事も、いいことづくめとはかぎらない。パリ、ロンドン、ローマなどは万国博を契機として、遠い将来を見越した近代的な新しい都市づくりが進められ、貴重な文化遺産となつたというが、日本の万国博に果たしてそれだけの用意がなされているであらうか。

札幌オリンピックは、たしかに北海道に有形無形の恩恵をもたらすであらう。しかし、その成功を急ぐのあまり、他を顧みることなく無理押しをすれば、悔を千載に残すことにもなりかねない。この国家的な行事が、一部の関係者を利するだけに終わらず、道民こぞで喜びあえる行事にするためにも、施設の整備や運営にあたっては、慎重のうえにも慎重を期してもらいたいものである。冬季オリンピックがまかり通つたあとに、草も生えない荒廃が残つたあつては、後世のもの笑いのたねとなるであらう。「経済大国」なみの「スポーツ大国」をめざすのもよいが、文化国家としても大國でありたい。恵庭岳周辺の自然を守り、これを文化遺産として後世に伝えることも「文化大国」への道に通じるのではなかるうか。——一九七〇・三・三一

(道立林産試験場副場長)

オリンピックまかり通る